

ものも言えぬ暗黒の職場づくり

日刊 勤労千葉

1988.7.25
No. 2861

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

乗務員どおしにかげりてん のチエックを強制！

乗務停止の乱発

この間、千葉転、勝浦、津田沼など各職場で乗務停止攻撃が乱発されている。理由はカーテン・アゴヒモ・反抗的態度など全く理不尽なものである。

夏季輸送で膨大な業務量が増加しているなかで、事実上の欠員状況をつくつてまでも、次々と乗務停止をおこなっているのである。しかも、講習室や訓練室に閉じこめて、連日、朝から晩まで就業規則の書き写しを命じ、「本人が反省の色を示すまでは絶対に乗務させない、反省したうえで再試験する」とまで公言する異常さである。まさに、「犯罪人」でもあつかうよりなやり方で労働者を屈服させようとしているのである。

津田沼支部への狙いうち弾圧許すな

とりわけ津田沼支部においては、たて続けに三人もの乗務停止攻撃がかけられている。津田沼運転区当局は、支部の仲間に対し「今度が最後通告だ、今度（カーテン・アゴヒモをしていないのを）現認したらお前は乗務停止だ」等、次々とヤクザのような恫喝をかけてまわり、津田沼支部破

壊を策しているのである。しかも乗務停止をされた仲間に対して当局は「食事と便所るとき以外は（講習室から）出てくるな」と言い放ち、「監禁」同様の状態を強制しているのである。

津田沼運転区

しかも、そればかりではなく、七月十一日から同じ職場で働く運転士に業務指示として、津田沼駅や東船橋駅、幕張本郷駅に立たせ、カーテン・アゴヒモ・入出区時の便乗（私服はもちろんのこと制服を着ていても便乗してはいけないと言っている！）のチェックをはじめさせたのである。

業務指示でカーテン・アゴヒモの相互監視を強制

職場の仲間どおしを相互監視させ、密告者にしたて、団結を切り崩そうとしているのだ。組合潰しのためには手段を選ばぬのが、現在のJRの方針であるとしても、これは何という低劣な発想か！

こんなことを許したら、まさに職場は荒廃し暗黒のごとき状況となることは明らかである。これがJRの宣伝する「明るく風通しのいい職場」の実態だ。

そもそもカーテン・アゴヒモのチェックを「業務」と称して業務命令でおこなわせること自体が異常である。いったいどのような根拠をもってこれが「業務」だとかいうのか、しかも、これを強制している要員は「過員活用」として車内美化等をおこなわせていた要員なのである。しかし、「チエック」の強制を開始した後は「車内美化」などそっちのけでチェック最優先なのである。何が「お客様のサービス」だ！ はしくなく「組合潰し第一」であることがこのようなやり方のなかにも明らかではないか。

われわれは、こんな卑劣な手口で職場の闘いを圧殺しようとする河野ら反動職制を弾じて許すことはできない。

われわれは、このようなことが続くならば、いつでも長期波状ストライキを再開する決意である。

組合脱退

強要事件

地労委斗争

千葉駅前

15時集合